

情報モラルに関する アンケート調査

埼玉県高等学校情報教育研究会

埼玉県立戸田翔陽高等学校
教諭 岩本太一

はじめに

- 埼玉県高等学校情報教育研究会（埼玉高情研）について
 - 総会・講演会・授業見学会・研究委員会
- 平成20年度 研究委員会 研究テーマ
 - 情報モラルに関するアンケート調査
 - 小・中の学習内容からみる「情報の科学的な理解」

参照資料・発表の流れ

- 資料
 - 埼玉県高等学校情報教育研究会誌 第5号 p.35～
- 発表の流れ
 - 研究の目的
 - アンケートの対象・内容
 - アンケート結果（単純集計）
 - アンケート結果（クロス集計）
 - まとめ

研究の目的

- 近年多くのトラブルの引き金になる携帯電話やネットワークの利用に関して、生徒の現状を把握し、今後の教育活動に生かしていくことを目的とする。

アンケートの対象

- 対象
 - 埼玉県内の高校生
 - 今年度は、性別も集計
 - 20校 2081件
(昨年14校 522件)

	合計	人数
男	52%	1083
女	48%	998
総計	100%	2081

アンケートの内容

- アンケート内容
 - a.ネットワーク利用状況（8項目）
 - b.情報モラル一般（12項目）
 - c.ネットワーク上の規範意識（9項目）
 - d.日常生活上の規範意識（8項目）
 - e.日常生活上とネットワーク上の意識（4項目）
- 今年度は特に、日常生活上とネットワーク上での規範意識やその行動に着目した

3つの「規範意識」について

- 「規範意識」を3つの段階に分割・設問

日常生活		ネットワーク
道交法 (傘さし運転)	法律	著作権
校則	ルール	利用規程の遵守
ゴミのポイ捨て	マナー	掲示板・プロフなどへの陰口や誹謗中傷

a.ネットワークの利用状況①

- 情報検索には全体の7割がケータイ使用 (a-1 表1)

a-1 情報検索するときに主に利用している機器

	男	女	全体
ア.ケータイ	63.9%	76.0%	69.7%
イ.コンピュータ	35.2%	23.6%	29.6%
ウ.その他	0.9%	0.4%	0.7%

- ケータイ等の利用時間は半数の男子が2時間未満の一方、7割の女子が3時間以上利用している (a-2 表2)

a-2 ケータイやコンピュータなどの

一日の利用時間			
	男	女	全体
ア.~1時間	29.0%	12.2%	21.0%
イ.~2時間	26.9%	19.1%	23.2%
ウ.~3時間	16.7%	22.5%	19.5%
エ.~4時間	9.2%	11.6%	10.4%
オ.~5時間	4.6%	8.4%	6.4%
カ.5時間~	13.6%	26.1%	19.6%

- 全体の6割の生徒がネットショッピング・ネットオークションなどの経験をしている (a-5 表5)

a-5 ネットショッピングやネットオークションの経験

	男	女	全体
ア.ある	59.1%	61.6%	60.3%
イ.ない	40.9%	38.4%	39.7%

a.ネットワーク利用状況②

- 掲示板やプロフの利用度合い・書き込み頻度において女子の多さが目立つ (a-6 表6・a-7 表7)

a-6 掲示板やプロフなどへの書き込み頻度

	男	女	全体
ア.したことがない	37.6%	14.7%	26.6%
イ.何回かしたことがある	41.5%	44.0%	42.7%
ウ.よくしている	21.0%	41.3%	30.7%

a-7 プロフの利用度合い

	男	女	全体
ア.自分のプロフを持っている	28.3%	56.7%	42.0%
イ.持っていないが、よく見る(知らない人のも見る)	11.4%	12.4%	11.9%
ウ.友人のプロフを見ているだけ	22.9%	19.8%	21.4%
エ.利用したことがない	37.4%	11.0%	24.7%

b.情報モラル一般

- 全体の2割が保護者未承諾のネットショッピングを経験 (b-4 表12)
- 一方、ケータイの利用について保護者との約束事があるのは2割程度にとどまる (b-11 表19)

b-4 ネットショッピングやネットオークションなどを保護者の承諾なしに利用したことがある

	男	女	全体
ア.ある	24.4%	17.3%	21.0%
イ.ない	75.6%	82.7%	79.0%

b-11 ケータイの利用について保護者と約束事がある

	男	女	全体
ア.ある	18.5%	21.3%	19.8%
イ.ない	81.5%	78.7%	80.2%

c.ネットワーク上の規範意識

- 著作権についての認識と行動に男女差 (c-1 表21)

c-1 歌詞の書き込み

	男	女	全体
ア.著作権の問題があると知っていたが、歌詞を書き込んだことがある	5.8%	10.1%	7.9%
イ.著作権の問題があると知らなかったが、歌詞を書き込んだことがある	10.0%	31.6%	20.3%
ウ.著作権の問題があると知っていたので、歌詞を書き込んだことがない	36.7%	22.0%	29.6%
エ.著作権の問題があると知らなかったが、歌詞を書き込んだことがない	47.6%	36.3%	42.1%
全	100%	100%	100%

c.ネットワーク上の規範意識

- 理由の多くは「悪いと思っていない」 (c-2 表22)

c-2 歌詞を書き込んだ理由

	男	女	全体
ア.たいてい悪いことではないと思ったから	9.8%	20.4%	14.9%
イ.親しい人以外には見られないと思ったから	0.6%	3.5%	2.0%
ウ.自分が書いたものだと親しい人以外にはわからないと思ったから	0.5%	1.7%	1.1%
エ.自分が書いたものだとわかっていても、訴えられたり、逮捕されたりしないと思ったから	2.5%	8.3%	5.3%
オ.自分が書いたものだと知られ、訴えられたり、逮捕されたりしても構わないと思ったから	0.5%	0.3%	0.4%
カ.その他	2.0%	7.4%	4.6%
全	15.7%	41.7%	28.2%

d. 日常の規範意識

- 全体の6割が、違反と知りつつ傘さし運転をする (d-1 表27)

d-1 自転車傘さし運転

	男	女	全体
ア. 法律違反になると知っていたが、傘さし運転をしたことがある	62.6%	58.1%	60.5%
イ. 法律違反になると知らなかったのに、傘さし運転をしたことがある	10.5%	10.8%	10.7%
ウ. 法律違反になると知っていたのに、傘さし運転をしたことがない	20.8%	22.8%	21.8%
エ. 法律違反になると知らなかったが、傘さし運転をしたことがない	6.1%	8.2%	7.1%
全	100%	100%	100%

d. 日常の規範意識

- やっぱ理由は「悪いと思っていない」 (d-2 表28)

d-2 自転車傘さし運転をした理由

	男	女	全体
ア. たいして悪いことではないと思ったから	40.6%	31.6%	36.3%
イ. 警察官に見つからないと思ったから	7.8%	8.5%	8.2%
ウ. 警察官に見つかっても、注意されるだけだと思ったから	10.3%	15.7%	12.9%
エ. 警察官に見つかって、罰金を支払うことになっても構わないと思ったから	1.5%	0.4%	1.0%
オ. その他	12.8%	12.7%	12.8%
全	73.1%	68.9%	71.1%

e. 日常生活とネットワーク上の意識

- 全体の8割が日常のモラルとネットワーク上でのモラルには関係があると回答 (e-3 表33)
- 全体の5割が掲示板などでの間接的に伝わる言葉のほうが傷つくと回答 (e-4 表34)

e-3 実生活とネット上での行動の関連性

	男	女	全体
ア. ある	81.4%	83.7%	82.5%
イ. ない	18.6%	16.3%	17.5%
全	100%	100%	100%

e-4 直接的な言葉と間接的な言葉

	男	女	全体
ア. 直接的な言葉	16.8%	10.0%	13.6%
イ. 間接的な言葉	46.8%	50.3%	48.5%
ウ. 変わらない	36.4%	39.7%	38.0%
全	100%	100%	100%

日常とネットでの規範意識に関するクロス集計

- 「c-1 歌詞の書き込み」と「d-1 自転車傘さし運転」のクロス集計 (表35)

c-1・d-1のクロス集計

d-1 \ c-1	ア	イ	ウ	エ	合計
ア	5.6	13.9	16.9	24.0	60.5
イ	0.5	2.5	2.2	5.4	10.7
ウ	1.2	2.5	8.8	9.2	21.8
エ	0.5	1.4	1.7	3.5	7.1
合計	7.9	20.3	29.6	42.1	100.0

日常とネットでの規範意識に関するクロス集計

- 日常生活でもネット上でも法律を守る生徒は守り、守らない生徒は守らない傾向が見受けられる (表36・表37)

c-1における回答アの抽出と全体比較

	ア	イ	ウ	エ	合計
ア	9.3	23.1	28.0	39.7	100.0
全体	7.9	20.3	29.6	42.1	100.0

c-1における回答ウの抽出と全体比較

	ア	イ	ウ	エ	合計
ウ	5.7	11.3	40.6	42.4	100.0
全体	7.9	20.3	29.6	42.1	100.0

日常とネットでの規範意識に関するクロス集計

- 実害がなければ構わない? (表38)

c-1, d-1でアと回答した生徒のd-2の回答

	ア	イ	ウ	エ	オ	合計
両方ア	46.2	7.7	27.4	1.7	17.1	100.0
全体	51.0	11.5	18.2	1.4	18.0	100.0

まとめ

- 日常とネット上でのモラルは相関がある
- 罰則の有無・強制力よりも、自らの経験をふまえた“自分律”をモラルの判断基準にしている
- “自分律”に変化を促すような体験的授業内容が改めて効果的であると考え